

【連載】

老健仕事人  介護支援専門員

老健施設 介護支援専門員の役割

[第2回]



谷本安隆 [たにもと・やすたか]

介護老人保健施設ライフ明海(兵庫県)
支援相談課 課長

前号では私が会社員時代に体験した事、学んだ事を中心に原稿を書きました。今回は介護職時代に体験した事、学んだ事について書きたいと思います。

介護職時代

老健施設で介護職として従事した5年間で、現在の施設ケアマネジャーとしての業務のベースになっています。ヘルパー2級を取得後、老健施設で介護職として勤務することになり、不安と緊張の中で初日を迎えました。

特に不安な点は「排泄介助」でした。“自分に出来るだろうかと不安で一杯でした”。オリエンテーション後、初歩的な任務についていましたが、先輩職員から「今から排泄介助に入るから補助に入って」と言われました。不安ながらも“よし”と気合を入れ直し、マスク・手袋・排泄用のエプロンを装着すると気持ちが引き締まり、何とか無事排泄介助を終えることが出来ました。

当初考えていたより、抵抗感は少なかったことを憶えています。“仕事として取り組むとこれ程違うものか”と思いました。

現在も難ケースに直面した場合、この時の状況を思い出し、“どの様な種類の業務にもしっかりと取り組まなければ”と自分に言い聞かせています。

介護職時代は①「個別ケア」と②「認知症ケア」の2つのケアが印象深かったと思います。

個別ケア

その人に相応しい^{ふさわ}ケアは基本中の基本ですが、当時の私は、目の前の業務をミスが無いように行なえば良い。事故なく無事に一日の業務を終えれば良いと思っていました。

例えば“〇〇さんは、日中トイレ誘導、夜間はポータブルトイレ”等、様々な申し送りがありますが、私は中々頭に入りませんでした。ヒヤリハットも何回か経験しました。

今のままの業務に対するスタンスでは介護事故に繋がるかもしれないと思いました。介護長や先輩職員からも、「もっと利用者一人一人を理解し、個別ケアを意識しなければダメ」と言われました。

入所者一人一人が歩んで来られた人生は夫々異なる事に気づく様になり、「個別ケア」の認識を深め、向き合う様に心がけようと思いました。

ある男性入所者について忘れられない経験があります。その方は介護抵抗のある方で、その日も排泄介助を始めようとしたが、その男性から、「いらん、帰れ!」と言われました。どう対応したら良いかを悩んでしまいました。その時、ふと、その方が「ゼロ戦」の本を大事に抱えていることを思い出し、そこで、自称軍事オタクの私は「三菱が開発したゼロ戦は世界最強ですね」と話しかけました。するとその方も笑顔になり「そうや、そうや」と、うなずかれました。その後、抵抗なく排泄介助をさせて下さる様になりました。

その方とは時間があれば、あえてゼロ戦・戦艦大和の話をしました。徐々に距離感が縮まっていくように感じると共に、介護抵抗もゆっくりと減少していきました。その後、その方の奥さんから「予科練出身」で戦闘機に乗っていた時の事を教えて頂きました。

この時の経験から、相談業務時の初期段階で、夫々の方の「個別性」を重視する為、性格・生活歴・生活環境等を把握する様に努めていますが、十分把握出来ないケースがある場合、反省を含め、疑問点を解決する為、再度聞き取りをする様努めています。